

12/15

2015年第1222号

(毎月5、15、25日発行)

大阪府歯科保険医協会
 発行人 志岐 敬
 大阪市浪速区幸町1-2-33
 電話(06)6568-7731(代表)
 http://osk-net.org/
 ●定価・年間10,000円 月1,000円
 ●1977年5月23日第三種郵便物認可

年間所得350万未満が5割 「長時間労働でやっと生活」



写真はイメージです

長時間・低収入などを理由に卒業後5年以内の離職率が8割とも言われる歯科技工士。技工士の待遇改善へ向け、保団連近畿ブロックは、大阪・兵庫・京都・奈良・滋賀・和歌山の各府県で歯科技工所アンケートを10～11月に実施した。アンケートからは技工物の低価格競争に翻弄される技工士の実態と、低補綴点数を歯科医師と技工士が分け合うひずみが浮かび上がった。

近プロ技工所 アンケート

低点数分け合うひずみ

図1 1週間の労働時間

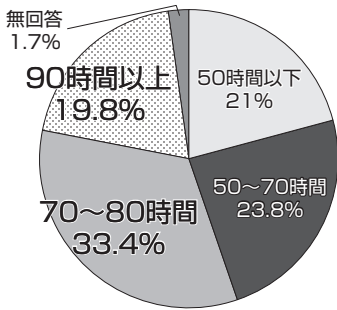


図2 可処分所得

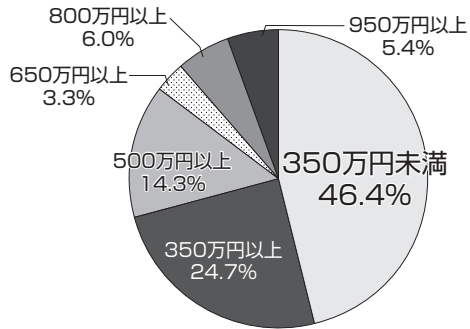
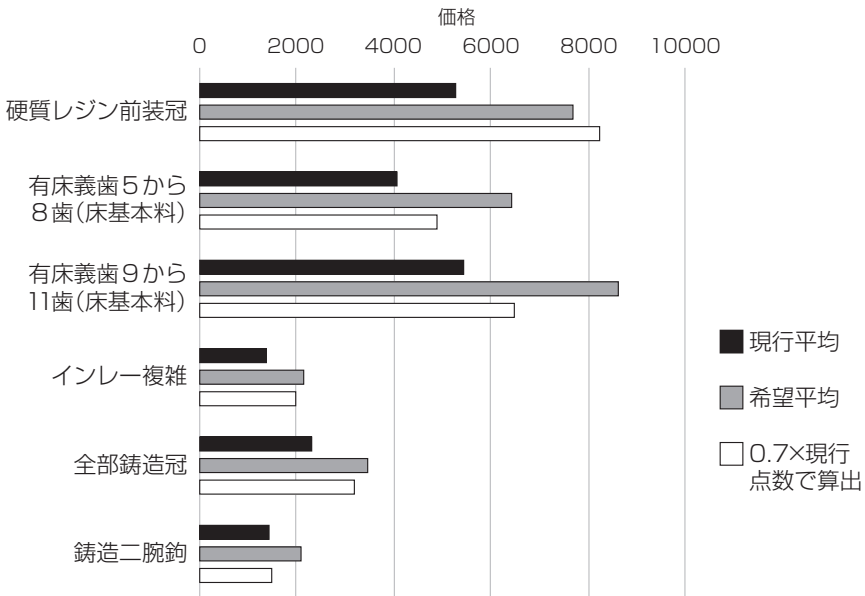


図3 補綴物の現行価格と希望価格比較



自由意見欄には「技工料金は限界ギリギリの底値でかなりの熟練者が長時間労働することによって生活が来ている状態です」(京都・39歳)などの声が寄せられている。

ダンピング競争

技工物の低価格の原因について尋ねたところ、「歯科技工所間のダンピング競争」について、84%が「そう思う」と回答。「歯科医院による値下げ要請」については70%が「そう思う」と回答した。

希望価格の7割

技工物の現在の取引価格と希望する価格について6種類の技工物について尋ねた。「硬質レジン前装冠」では、現行取引価格の平均は「5279円」で、希望する取引価

格の平均は「7693円」。希望価格とは約3割の差があった。他の5種類でも歯科技工士の希望する価格の6割から7割程度だった。

適正評価・点数増不可欠

補綴物の診療報酬について歯科医師と技工士が「概ね7・3」で分ける」として大臣告知の配分を念頭に、現行の保険点数×70%で委託技工料を算出し、アンケートに寄せられた技工士の希望価格と比較した(図3)。技工士の希望価格が保険点数の70%を下回るのは、

ても、約7割が「そう思う」と回答した。自由意見欄では「医院から料金をいたたくシステムだと、ダンピングや値引き交渉になる。(診療報酬が)ダイレクトに入金されるシステムを(55歳・大阪)」といった声が多くなかった。

「義歯関連」で、6割以上が不採算とした。「インレー」が35・1%、「全部铸造冠」が25・3%と続いた。意見欄には「有床義歯は工程が多い割に料金が安い。評価を上げるべき」(奈良・37歳)との声が寄せられた。

技工士の希望額には届かないことが分かる。診療報酬が想定している委託技工料がそもそも低すぎると言える。現状の低点数を歯科技工士と技工士が分け合うひずみが浮き彫りになってきている。

歯科技工士や歯科技工士の技術に見合った適正評価に基づいた大幅な点数の引き上げと技工料として適正に技工士に渡る仕組みの必要性が技工所アンケートを通じて明らかになっている。

「硬質レジン前装冠」のみだった。現行の診療報酬を前提に、「概ね7・3」で歯科技工士と技工士が点数を分け合っても、歯科技工



講演する田辺氏＝11月28日、保険医会館

次期診療報酬改定へむけて、記載要領通知のうち見直すべき点等、指摘した上で、告示留意事項通知をご15付は休刊。

社保研究部は11月28日、保険医会館で全国保険医団体連合会・副会長の田辺隆氏を講師に「レセプト電子請求の今後の審査と次期診療報酬改定の課題」をテーマに社保講習を開き、27人が参加した。

電子レセプトの全国普及率が96%に達し、縦覧点検による査定が2014年18・2%、2015年8月で23・2%と年々増加している状況にあると紹介。

また、縦覧点検において歯周治療での算定誤りが多いことや突合点検で投薬の適心症・投与量・投与日数が調剤レセプトに不適・不適が一律に判定できることによる査定が多くなることを紹介した。

電子請求審査の現状を学習

社保研究部 田辺氏 論点と課題解説

今日の数字
7兆8899億円
 公的年金積立金の今年7～9月期の運用損益赤字額。安倍政権は株式での運用を拡大。

「年末年始のお知らせ」協会の年末年始の業務と本紙の発行は次の通りです。
【休務】 12/29～1/5
【新聞】 12/25付と1/5付を合併し、1/1付新年号として発行。1/15付は休刊。

会員学習会のご案内

2/13～14、M&Dホール

- 2月13日(土) 17時30分～
 テーマ：政府の医療提供体制改編と地域包括ケア・かかりつけ歯科医に関わって
 講師：岡崎祐司氏(佛教大学教授)
- 2月14日(日) 10時～
 テーマ：診療報酬改定関連
 講師：社保・政策部講師団

お申し込みは協会事務局まで

歯界
 団塊の世代が高齢者の仲間入りをし、それを新しい顧客とし新分野のビジネス展開が期待されている。過酷な経済競争を経てきたこの世代は宗教離れているし、高価な墓石を注文するにはまだ早すぎる。
 趣味に定年後の生きがいを見いだそうとする人の中で最も人気があるのは写真とバイクらしい。暇ができるご自分の過去を振り返り、経済成長の中で戦った雄姿が輝いて見える。
 そこで「是非、我が社から自分史を出版しなはれ」とのアタックが入る。著者を顧客に据える発想の転換である。出版業界は活字離れによる構造不況から立ち直れる兆しもない。人気者が文学賞を受賞してもブームは一時で、千円以上の金を払って字が読めない娯楽では割に合わないと思う。
 だが、読者でなく著者になるなら、一考の余地がある。だれでも自己顕示欲があり、未来が僅かの老人にはなわさうである。産業界が不況で絞る知恵は無限である。